

発行責任者

稲生正勝

横浜市泉区白百合2-6-4  
〒245 TEL.045-811-4404



都島だより  
KANTO NANIWA KOGYOKAI  
NEWS

関東浪速工業会

1 関東浪速工業会  
会報

投稿送り先

石川芳夫

千葉市中田町1193-13高根グリーンタウン37-12  
〒280-01 TEL.0472-28-2102

編集委員 電気=笹本克己 (S13卒) 田中己晴 (S43卒) ・土木=秋月勝美 (S18卒) 榎本嘉信 (S20卒) ・建築=若林衛 (S36卒) 西口勝臣 (S47卒)  
工化=松井駒治 (S32卒) 柴田孝次 (S34卒) ・機械=福岡照夫 (S26卒) 橋本健治 (S28卒) 石川芳夫 (S34卒)

# 『都島だより』発行にあたり

関東浪速工業会会長 稲生 正勝



今回、装いも新たに関東浪速工業会の機関紙が発行され、誠に同慶のいたりです。これに至るまでの各科編集委員の方々の並ならぬ苦勞に対し心よりお礼申し上げます。  
これからは年代を超越したバラエティに富んだ紙面になります。よう、会員皆様のご支援をお願い致します。特に、近代感覚の充実されている若い方々の積極的なご協力を期待いたしております。会員皆様のご発展とご多幸をお祈りし、再会の日を楽しみに致しております。

## 祝辞

浪速工業会  
理事長 和田 正八郎

『関東浪速工業会誌発行に際して』  
この度、会誌を発行されるに当たり一言お祝いを申し上げたいと存じます。  
関東に於いて皆様方は我々都島工業出身の内、特に優秀な方々が国際都市東京都とその周辺で活躍して居られる事は、誠に喜ばしい事と存じます。  
ここ数年より本部との接触も深まり浪速工業会関東支部として益々会員の充実を計られてつある事は同慶の至りであります。  
時あたかも平成と年号も改まりました。また母校、都島工業高等学校も来年には八十三年振りに新校舎が竣工する時期に会誌の発行をみます事は誠に意義深いものがあると考えます。  
本部も本年より会報を春秋二回に増刊する事に致しました。関東の会誌の発行と併せて東西

## 祝辞

関東青嵐会会長 上畑清郎

『関東浪速工業会ニュース 発行に寄せて』  
(1) 内容の期待  
日本人は過去に生き、そして過去を大切にす民族だと云われている。特に、私共のような大正生まれや、働き盛りの昭和一代に生をうけた人はその大抵が、昔の思い出や追憶に對して限り無い情熱を燃やす。従って今回のニュースの紙面が折りにふれ、そういう記事で飾られることを密かに期待して私はとても心しみなのである。  
しかし、昭和も後半の生まれの若い人々は現在に生き、現在を大切にそして、いま楽しく過ごすことに生き甲斐を見いだしている。過去のことにはあまり

の交流と若い会員の方々の喚起を促したいと願って居ります。産業界非常な好況の続く中、会員諸兄のご活躍とご健勝を祈念し、祝辞と致します。

拘らずまた、未来は現在の続きとして捉えている。こうした読者が大半を占めてゆくことを思うとNHKの朝のドラマが『純ちゃんの応援歌』から『青春家族』に移ったように現代の世相を反映するようになった内容が盛り沢山でないかと魅力に欠けるのではないかと思う。そして、我々大正生まれもこれを読んで堅い頭を軟らかくほぐす一助にしたいものである。

## (2) ニュースの役割

さて、そう云うけれど老若男女に共通なことは日本は義理と人情の社会だと云うことである。リクルート事件に象徴されるように日本は贈り物の社会であり、心の借りと貸しが人生のゲームとなり、時には人生意気に感じて損得無視の行動が行われたり、また、情に掉させば流されることを知りつつも人生にロマンを求めて浪花節的な生きかたに喜びを覚えたりする。こんな事をあれこれと思いつかべると日本の社会でうまく暮らすにゆくてのために豊富な人脈が必要であると云う所に突き当たると。義理と人情は人脈を通じて運ばれるし、仕事でも遊びにおいても人脈は便利な武器である。関東浪速工業会と云う組織が一つの人脈をつくる場として役立つようにそして、このニュースが人脈を育てあげるメディアとしてその役割を果たすように心から期待している。

最後に白羊会ニュースから関東浪速工業会のニュースへ発展させて頂いた白羊会幹事の方々に敬意を表すると共にお礼申し上げます。どうも有難うございました。

## 『都工への道』

昭和18年土卒 太田 清  
関東浪速工業会報の創刊にあたり投稿の機会をいただきましたが、生來作文が苦手上に昨今は通信網の発達で電話で用件を済ませる事が多く、ペンを取るチャンスがありません。如何に処すべきか困り果て、幹事の榎本さんにお断り致しましたが聞き入れられず、思い出さずの事に致しました。

「天六から都島本通りにある学校」まで戦前は都工生が徒歩通学を致しました。私達は天六組と称しまして、新大阪電鉄(現阪急電鉄)を利用して天六に来る生徒と天六・豊崎付近在住の生徒諸兄が都島・守口方面行きの市電に沿って淀川にかかる都島大橋を目指して歩き、次に左に日本橋梁を眺めながら橋を渡たり、都島車庫前で市電の入れ替え作業、運転手・車掌の交替等を横目で見ながら都島本通り三丁目の停留場を左に折れ学校の正門に達しました。此の間約二十分ですが、同輩と話しながら先輩に敬礼を忘れたくをたられた事や遅刻のため駆足で登校した苦しさ、風雨のため都島大橋を渡るのに傘がさせずズブ濡れになった事等色々思い出されます。  
懐かしい思い出は土曜日の昼さがり淀川の堤を散歩し、毛間の開門付近で級友と桜見物をし乍ら話し合った事でしょうか。  
戦後四十数年、時代の変遷と共に此の道も地下鉄の開通により市電も廃止され、道路は交通渋滞となっておりましよう。しかし、昔の思い出に今一度「天六から都工への道」を歩きたいと思っております。

# 都島本通り

昭和天皇の本校御臨幸から三年目の昭和七年に十一倍強の難関を突破して入学できた。まず驚いた事は高等小学校からの同級生や名門北野中学からの転校生を始め数名の留年生が居たことであつた。また、上級生は皆親父さんの様に見えたことである。当時は学校から徒歩通学が出来る者は徒歩で通学せよと厳しく指導されていた。入学して当分の間は徒歩で通学していたが、そのうち雨天の日などは市バスを利用するようになった。当時早朝割引があり往復キップが確か七銭であつた。今から思うと嘘のような話である。一年生の時の担任が川崎先生で『そうすね』が口癖で国語と柔道を教えられていた。昭和十三年に卒業、社会人となった。翌十四年十二月に現役兵として高槻工兵隊の営門を潜り第一期の教育を修了すると直ちに中支派遣の工兵第三十四聯隊へ転属、戦いながらの教育を受け幹部候補生に採用された。同窓生四人と共に千葉県松戸の陸軍工兵学校に入学、十六年に卒業して中支の原隊へ復帰、その途中に母校へ立ち寄り、懐かしい川崎先生にお会いできた。放課後先生に連れで行かれた所が都島本通り四ツ角に面した小料理屋その夜、先生と大いに飲み、語り合った。忘れられないのが都島本通りです。  
その先生も今は亡い。  
(昭和13年建卒 鹿山富士夫)

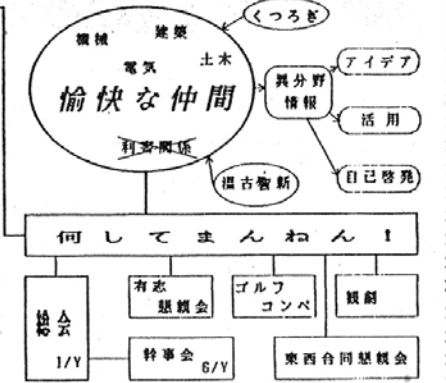
**建築科の皆様へ投稿のお願い**  
 建築科の編集委員になりました。昭和36年卒の若林と昭和47年卒の西口です。

この「都島だより」を出すに至った経緯は関東浪速工業会々長等のお話ともダブルかも知れませんが、昨年の関東浪速工業会総会(建築科15名出席)で多数の賛成で承認され、その後の幹事会で編集方針等を検討し、発行することに決まりました。堅苦しい内容では面白くない、読む方も書く方も面白くない、そう云ったものは全国版の浪速工業会誌にお願いするとして、こちらは関東方面の同窓生の情報交換誌として同窓生間の交流

に少しでも役立つ事を願って作るつもりです。とは云っても編集委員だけでは何も出来ませんので、皆様の投稿を心よりお待ちしております。

投稿は匿名のものでも構いません、昔話・随筆・仕事の面白い話・今だから公表出来る話・各年度の話・旧友の消息捜し、公募・投稿に密かに混せての宣伝等なんでも結構です。短い文もOK、気楽に投稿して下さい。皆様の投稿が作り上げる「都島だより」です。建築科だけ投稿が少ないのも寂しいので、皆様のご協力をお願いします。たまには原稿依頼の電話を掛けることもあるかと思いますがよろしくお願いします。

**舎密会(工業化学科卒) 関東在住の皆様へ**



浪速工業会 24000名  
 =同じ校門をくぐった仲間

この趣向図は完成させて下さい!

M ニュース発刊に際して  
 現Pのライター: 松井、佐々江、栗田

センスある人

昭和47年建卒 西口勝臣

**青葙会からのお知らせ**  
 3月末に青葙会(関東)の幹事会が行われ、その席で仁木会長が引退を表明され後任の会長に昭和28年卒の岡田宏三氏に決まりました。

**関東白洋会会員の皆様へ**  
 去る昭和六十二年母校創立八十周年に当たる時に有志会員の呼び掛けにより、会員相互の親睦・交流を深め、また、情報交換の場として気楽で楽しい新聞を目的に「関白ニュース」0号版を発行、以来第3号版(昨年八月)まで継続して発行してきましたが、今回の創刊号(主旨説明)の通り関東浪速工業会誌「Mニュース」として新しく発足の運びとなりました。従って「関白ニュース」はその大きな役割を果たし、今回、発展的解消することとなりました。

企画も新たに充実した楽しい新聞として皆様に引き続き愛読していただけるよう努力して参りたく思っております。どうか今後とも皆様方の「投稿」ご協力下さいませ。また編集委員より原稿依頼をする場合もあります。その際には宜しくお願致します。

『関東浪速工業会だより』創刊に際して  
 昭和13年電卒 菅本克己  
 今回関東浪速工業会でも「便り」を発刊することになったことは慶ばしい限りです。このことは二年程前から機械科の関白白洋会で「関白ニュース」として創刊されて続けて来られたものを私達の要請を快く容れて下さって、それを拡大して関東浪速工業会全体のものに発展させることになった訳で、機械科の関係各位に心からお礼申し上げたいと存じます。

た。企画も新たに充実した楽しい新聞として皆様に引き続き愛読していただけるよう努力して参りたく思っております。どうか今後とも皆様方の「投稿」ご協力下さいませ。また編集委員より原稿依頼をする場合もあります。その際には宜しくお願致します。

「命名」  
 ついに、関東で同窓会の新聞が発行される。どうぞせなら楽しく美しいものになつてほしい。そんな気持ちから提案させてもらった新聞名と題字デザインが採用されることになりました。

「命名」  
 ついに、関東で同窓会の新聞が発行される。どうぞせなら楽しく美しいものになつてほしい。そんな気持ちから提案させてもらった新聞名と題字デザインが採用されることになりました。

「命名」  
 ついに、関東で同窓会の新聞が発行される。どうぞせなら楽しく美しいものになつてほしい。そんな気持ちから提案させてもらった新聞名と題字デザインが採用されることになりました。

「命名」  
 ついに、関東で同窓会の新聞が発行される。どうぞせなら楽しく美しいものになつてほしい。そんな気持ちから提案させてもらった新聞名と題字デザインが採用されることになりました。

「命名」  
 ついに、関東で同窓会の新聞が発行される。どうぞせなら楽しく美しいものになつてほしい。そんな気持ちから提案させてもらった新聞名と題字デザインが採用されることになりました。

「命名」  
 ついに、関東で同窓会の新聞が発行される。どうぞせなら楽しく美しいものになつてほしい。そんな気持ちから提案させてもらった新聞名と題字デザインが採用されることになりました。